

JUNGIDO

滋賀県立膳所高等学校同窓会報 遵義堂

『遵義の桜、さらなる開花』

1898 = 桜 = 2006

CONTENTS

就任ご挨拶	1
新入会員	1
平成18年度総会のお知らせ	1
新校舎特集	2.3
周年記念同窓会報告	4.5.6
周年記念同窓会予告	7
訃報	7
同窓生投稿欄	7
同窓会役員	7
膳所高NEWS	8

総会提出講集・会員納入のお願い・事務局便りなどは同封のJUNGIDO別報に掲載

発行人/浅田幸作
 発行所/滋賀県立膳所高等学校同窓会
 大津市膳所2-11-1
 TEL077-524-4295・FAX077-524-1732
 発行日/平成18年4月20日
 編集人/広報部会・山田 勲
 印刷/有限会社社報印刷所

URL: <http://www.dosokai.ne.jp/zezekoukou>
 E-mail: zeze-h-dosokai@poem.ocn.ne.jp



VOL.23

新入会員



「一生の友人」

平成18年3月卒業

西尾 優佑

膳所高校に入学した時の親睦会で「勉強も大切だが、この3年間の高校生活で一生の友人を作ってくれ」との先生の言葉が今思い出されて本当に大事なことだと分った。意識せず3年間を過ごしても、学校のイベントなどを通じて「一生友人」という関係を築いて来たんだと思ってる。こうしたことが自然に出来るのが膳所高校の生活環境であったのだ。そんな中で生徒会長をさせてもらって学園祭や体育祭では、タイムテーブルの制作

就任ご挨拶

同窓会長 浅田 幸作



膳所高等学校同窓会の会員の皆さまにおかれましては、ますますご健勝で、それぞれのお立場においてご活躍のことと存じます。

わたくし、平成十七年五月の膳所高等学校同窓会平成十七年度定例総会におきまして、宇野勝会長ご勇退につき、その後任として、会長をお引受けすることになりました。力不足は否めませんが、会員の皆さまのお力添えをいただきながら、会長職を務めさせていただきますので、ご指導・ご協力のほど、よろしくお願ひ申し上げます。

去る三月には四三六名の平成十七年度卒業生が我が同窓会に入会してくれました。清新の気に溢れる若者たちの前途を祝福し、これから立ち向かう社会での活躍を期待するばかりです。

さて、完成が待たれておりました新校舎並びに体育施設棟、セミナーハウスが本年三月完工され

ました。平成十四年八月の埋蔵文化財発掘調査中にグラウンド下から「木津頓宮」と考えられる奈良時代の建物跡が出土し、一部設計変更が行われ、着工が一年半遅れましたが、竣工の運びとなりました。生徒たちの安全確保が危惧されるほどに老朽化した旧校舎も面目を一新し、最新の設備が整い、すばらしい教育環境が生まれました。また、平成十八年度には、旧校舎解体・体育館改修・グラウンド整備が行われ、平成十九年三月には一連の膳所高等学校の改築工事がすべて完了します。膳所高等学校創立百周年記念事業における第二グラウンドの整備・トレーニングハウス建設に加うるに、念願の校舎新築等がなされ、膳所高等学校は百八年の伝統を礎に、将来に向けてますます充実・発展することが期待されます。滋賀県・滋賀県教育委員会のご援助やご指導に対して、厚く御礼申し上げます。

終わりに、会員の皆さまにご報告させていただきました。本会第五代会長・顧問の岩崎栄三様が平成十七年十月二十八日にご逝去されました。岩崎栄三様の生前における本会へのご功績に深謝をし、ご冥福をお祈り申し上げます。

など難しいものはそつちのので、ステージ・パフォーマンスを楽しませてもらい、素晴らしい思い出となった。

今、僕たちは学校を卒業する。クラスの皆さんと、毎日会ったり、冗談を言い合ったりできなくなるのはとても寂しいが、会えないからこそ再会の機会である同窓会を楽しみにしている。

三十代の同窓会では各人バリエーションの企業戦士や社会に貢献している人もいろいろいるだろうし、家庭ではママやパパになっっている人もいろいろいると思う。六十、七十代でも、たぶん、みんな元気な姿で意気投合し合えると思う。何歳になっても友人は友人で、集まると年なんて忘れてしまうと思う。これが「一生の友人」なのだろうと理解した。生涯において友人というものは必要不可欠だと思える、3年間であった。

本年の総会 は 5月21日(日)

平成18年度 総会のお知らせ

滋賀県立膳所高等学校同窓会 平成18年度定例総会を左記の通り開催いたします。多数の皆様方のご出席をお願い申し上げます。

平成18年度 定例総会

日時 平成18年5月21日(日) 午前10時開会
 (受付開始 午前9時30分)

場所 琵琶湖ホテル

大津市浜町2-1-40

TEL 077-521-1111

議事

- ・平成17年度会務報告
- ・平成17年度会計報告並びに会計監査報告
- ・平成18年度事業計画並びに予算案
- ・その他

校舎改築竣工報告

管理棟・教室棟・体育施設棟・セミナーハウス
 記念講演「モンゴル大草原：世界遺産への夢」

講師 天谷孝夫氏

(膳所高12回・昭和39年卒)

岐阜大学応用生物科学部 教授

懇親会

懇親会にご出席の方は当日受付にて会費6千円をいただきます。

●出席のお返事は同封のハガキでお願いします。

●欠席の方及び異動のない方はご返信不要です。

●懇親会出席の方でキャンセルされる方は5月15日(月)までに連絡ください。

●直前及び当日欠席の場合会費を申し受けます。

講師プロフィール



1945年大津生まれ/1964年膳所高校卒業/1969年京都大学農学部卒業、同助手/1971年岡山大学農学部助手、助教授/1991年岐阜大学農学部教授/2004年岐阜大学応用生物科学部教授、現在に至る/農業土木学会理事、日本モンゴル学会副会長など/現在は特に黄砂問題に関わる各種委員会にて活動

講演の主旨

どなたも人生に多大の影響を与えた本がありと思いますが、私の場合は高校2年の国語の副読本で読んだ中島敦の「季陵」です。それ以来、還暦を迎えた今日までモンゴルの自然と人々への熱い思いは絶えなかったことがありません。しかし、世界遺産とも言うべきモンゴル大草原の環境が危機に瀕しています。皆様と共に考えたいと希望します。

新校舎特集

新校舎竣工にあたって

膳所高等学校 校長

大崎 悦男

本校の現校舎は昭和35年に建て替えられたもので、狭小で老朽化が著しいことから、平成12年度に県教委において膳所高校改築計画が策定され、平成16年度中の完成を目指して全面改築されることになりました。しかし、改築工事に先立って行われた文化財発掘調査で、聖武天皇が天平12年（740）の行幸の際に設けた「禾津頓宮」と考えられる建物跡や奈良時代後半の軍事施設の一部と考えられる遺構が発見されたため、設計変更を行うなど着工が大幅に遅れ、平成16年8月ようやく管理棟と教室棟の工事請負契約が締結されました。

体育施設棟およびセミナーハウスも

平成17年7月、8月に相次いで工事請負契約が締結され、その後、近隣住民の方々のご理解やご協力により工事は順調に進捗いたしました。しかし、現場が教室のすぐ近くであったため、騒音や振動が授業に影響を与えることがないように、施工業者との調整に奔走したり、現場の進捗に応じて通学路を変更するなど、学校ならではの苦労もありました。

多くの方々のご協力を得ながら長年掛けて進めてきた改築工事ですが、平成18年2月に管理棟、教室棟およびセミナーハウスが竣工し、残る体育施設棟も予定どおり3月末には竣工し、新築工事はすべて完了いたしました。しかし、平成18年度には現校舎の解体工事と体育館改修工事、グラウンド整備工事が待ち受けていますので、近隣の方々が在校生にはもう少しご迷惑をかけますが、ご理解、ご協力を賜りますようお願いいたします。

新校舎への引越しにあたって

- ・2月から教職員でチームを組んで図書・理科関係・家庭科室などの部屋の物品の梱包・一部の物品の運搬などにあたりました。
- ・2月末からは図書室を皮切りに理科関係の各部屋、家庭科室・芸術関係の部屋などの物品が業者によって梱包作業や新校舎への運搬作業が行われています。
- ・3月23日には1・2年の生徒によって自分たちの椅子や机を新校舎に運びました。・3月27日・28日には業者による事務室・職員室などの物品の運搬が集中的に行われました。
- ・3月29日からは基本的な業務が新校舎で行われています。



▲管理棟(左)と教室棟(右)。管理棟正面玄関向って右側が事務室です。



▲セミナーハウス「道桜館」。1階に研修室、厨房、シャワー室、2階に宿泊可能な和室があります。

工事中特に留意したことは

授業中の騒音対策として

- ・夏期休業中に3年の教室に簡易クレーンを設置しました。
- 生徒の通学進入路の安全対策として
- ・グラウンド東側（プール横）に生徒通用門を設置し、清徳院前から進行し、ここを通るよう生徒に指導しました。
- 近隣の住民の方々には・連合自治会や周辺自治会と数回協議をし、ご理解とご協力をお願いいたしました。



▲広くなった教室。



▲管理棟と教室棟を結ぶ渡り廊下。右上にあざやかな校章が。



▲体育施設棟の屋上には水球競技も可能な深さを持つプールが完成。



▲玄関正面には班活動の輝かしい成績を展示。



▲新校舎屋上から琵琶湖を望む。



▲廊下も明るく広く、すっきりと。



▲中庭には名物のペンギン像も移設。



▲教室棟の屋上に設置されたソーラーパネル。他にもトイレなどの給水用に雨水循環システムを採用するなど環境に配慮。



▲全教室には屋外テラスが。



▲屋上には小庭園もあるテラスが完成。



▲天体ドームもリニューアル。



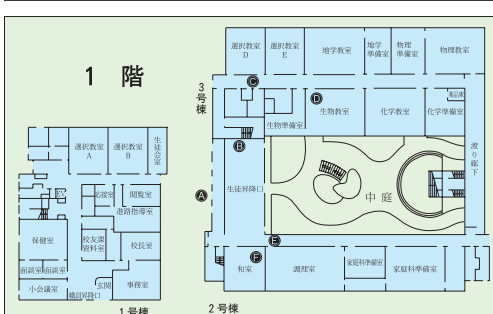
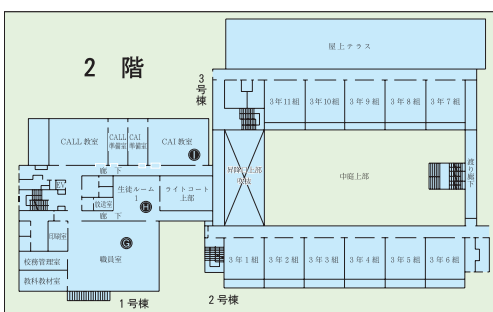
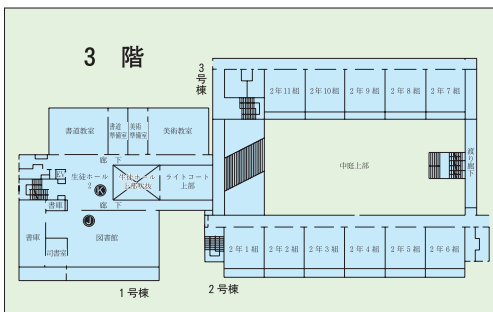
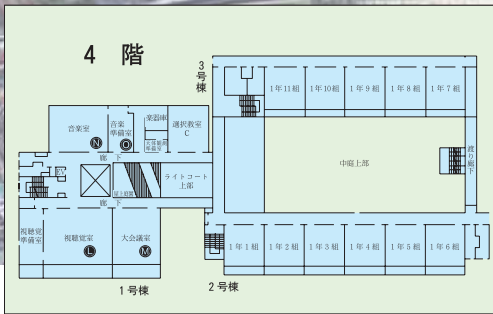
▲新校舎は全面土足禁止。生徒は生徒昇降口で上靴にはき替えて登校。A、B



▲選択教室前廊下C



▲機器も新調され使いやすくなった生物教室ほか特別教室D



▲和の趣きを大切にした家庭科室E、F



▲一体化され広々とした職員室G



▲生徒ルームに設置された相談・指導コーナー。上部には太陽光発電システムの表示パネルが。H



▲CAI教室には最新のコンピュータ機器が勢揃い。I



▲閲覧スペースもゆったりとした図書室。重要文献を収納する書庫も充実。J



▲防音、音響効果も充実した音楽室。準備室もゆったりと。別に楽器庫も配置。N、O



▲AV機器も完備の視聴覚室L



▲会議室は隣の視聴覚室との一体化によって大会議室に早変わり。M



▲生徒が自由に利用できる解放感あふれた生徒ホール。K

周年記念同窓会



20周年記念同窓会

(膳所高33回・昭和60年卒業)

数十年ぶりに雪の多い冬ではありましたが、穏やかな天候となった平成18年1月2日、琵琶湖ホテルに於いて、昭和60年卒業第3回同窓会を開催いたしました。「卒業して20年も経ったの？」返信されてきたはがきの多くにも書かれていましたが、まだ鮮明に思い出される高校でのあの日々から20年もの長い年月を別々に過ごしてきたことに感慨を覚える周年同窓会となりました。

恩師の須田武志先生、山本正史先生、大野富雄先生、向井了暢先生、山川悟先生、井上朱美先生にご臨席賜り、同窓生は第1回の180余名、第2回の150余名よりは少ない116名の参加ではありましたが、40歳を目前に働き盛り、子育て真っ最中のお忙しい中多くの方々に出席していただき、開会前の集合写真撮影時から賑やかに盛り上がりを見せました。先生方にお言葉頂き、向井先生のご発声で乾杯の後は、会場は20年前と変わらぬ呼び名、変わらぬ話し振り、変わらぬ容姿(っ)で、学生時代そのままに、懇談の合間には、自分の近況報告や事業宣伝をして次の人を指名するスピーチが、湖南市市長の谷畑英吾君に始まり、山敷庸亮君からは全員が立ち上がり正拳突きを指南されるパフォーマンスもあり、全国各地でそれぞれに様々な生き方をしている同窓生の様子に皆心身ともに刺激を受けました。宇野彰一君、峯本敦子さんの軽妙な刺会が終始和やかに3時間余りの懐かしい時間が瞬く間に過ぎ、最後は全員で校歌を斉唱し、山川先生による一本締め、クラス毎の記念撮影をして、前回の同窓会の折にも作成した先生のお言葉や同窓生の近況メッセージを載せた冊子と集合写真を手に散会となりました。冊子や写真は、同期生にはインターネット上で公開し



ていますので参加登録の上是非ご覧ください。
<http://groups.yahoo.co.jp/group/zeze60/>
最後になりましたが、3年7組を担当していただき、社会科のご指導をいただきました村西康彦先生が昨年ご逝去され、皆大変残念な思いで居りました。村西先生のご冥福を心よりお祈り申し上げます。
(若山法子)

25周年記念同窓会

(膳所高28回・昭和55年卒業)

平成17年8月13日、琵琶湖ホテルにて、28期生の卒業25周年記念同窓会が行われました。13名の恩師のご出席を賜り、123名の同窓生が集い、笑顔あふれる会となりました。IT業界で頑張っている人、不織布の営業開発に情を注いでいる人、貿易会社を設立した人、発掘調査員、銀行マン、難病の子供と戦っているお医者さん、思い立って学生している人、39歳で出産はまだまだ子育て真っ最中のママ、アニメの3Dモデリング製作者、通訳、教師、絵本の読み聞かせにはまっているお母さん・・・本当にさまざまな生き様で頑張っている懐かしい友人で出会うことが出来、感慨もひとしおでした。



先生から頂いた「勝ち負けではなく、本当に自分らしい人生を深く味わえるのはこれからです。」というメッセージに、心動かされたら、人生半ばの43・44歳になって、高校時代に縁あった出会えた友人がかけがえのない存在であったことを今さらながら実感しています。あの時に刻まれた歴史そしてその記憶は、ますます愛しく私たちの心で生き続けるだけではなく、同窓会を通じてまた新たな何かが生まれ、そして育まれていくような気がしました。さらに私たちが輝く母なる琵琶湖、晴れわたる大空・・・その下に私たちの思い切りの笑顔がありました。そして話の花は2次会・3次会へと尽きることなく咲き続

30周年記念同窓会

(膳所高23回・昭和50年卒業)

私たちが卒業したのは1975年、ちょうどあのベトナム戦争が終わった年だ。それから30年、80年代の繁栄した空間を生きて、90年代の失われた時代を過ごして、有史以来はじめてわが国の人口が減少した2005年の4月30日、私たちは高校卒業30周年記念同窓会に集った。あの古めかしくも威風堂々とした母校の校舎を取り潰し、たいへんモダンな建物に建て替えるということで、まずは旧校舎に別れを告げ、新校舎との出合いを果たした。



一次会の琵琶湖ホテルでは懐かしい顔、顔、顔！参加者は恩師の先生方を含め総勢174名。今まで4回開催した同窓会の中で最も多い人数で実行委員たちもとても満足げな表情だった。祝宴も盛り上がり一献傾けながらみんな大いに語り、笑い、喜び、騒ぎ、それはまさしく30年前の青春時代の姿そのものだった。二次会は、浜大津港から外輪船「シガン」に乗り、琵琶湖の美しい夜景を眺めながら、ある者は再び杯を重ね、ある者はゲームに興じ、また、ある者はまるやかな湖上の春風に吹かれ初恋の頃を懐かしんでいた。下船後ホテルに戻り三次会の席へ。別れ惜しく校歌とともにみんなで歌った「琵琶湖周航の唄」。写真班出身で現在プロカメラマンの辻村君がたくさんのスナップ写真を撮りそれらをCDに入れみんなに送ってくれた。本当にありがたう。同封した手紙には「私たちはこれから季節の花々の美しさや翠玉のような琵琶湖の艶やかに気づく年齢にさしかかっています。5年後、また会いましょう。そのときまで、みなさんお元気で！」と書き添えた。(姜 永根)

35周年記念同窓会

(膳所高19回・昭和46年卒業)

平成18年1月2日、私たちにとって3回目となる学年同窓会を琵琶湖ホテルにて行いました。新年早々ということもあり、午後3時からの開催で、ゆつたりとした時間の中でのスタートとなりました。前回学年同窓会は5年前、130名の同窓生・10名の恩師の方々が集まりましたが、今回は70名の同窓生・9名の恩師の方々の参加で、先生方は前回並みなのに同窓生は随分と減ったなと思う反面、じつくりと語りあえてこれでもいいかと思えます。



まだ50歳代になって間もないのに、物故者追悼の黙祷はないよな一と思いつつ、想いの外亡くなられた同窓生がいて何ともいえない気になります。先生方は皆さんお元気で、35年前とそんなに変わっておられませんでした。自分が老けたのになんで、と感じつつ人は齢(よわい)ではないのかと納得したりします。小笠原先生の乾杯の音頭によりいよいよ開宴。初めこちらで語らいの場が開けていきました。3年間の高校生活でクラス編成が代わっていったなか、彼は彼女はいったい何年の時の同級生だったか、しばらくは思い出せないうえでしたが、宴が進むにつれ記憶がよみがえってきました。クラスを超えたこの集まりに共通する思い出といえば、やはり学園祭ではないでしょうか。特に「草津線」の仲間が催した演劇は楽しい思い出です。宴もたけなわとなり、その中心メンバーであった長田君、そして在学中には同じクラスではなかったが卒業後ずっと遊び仲間である和田君、昭和46年卒業組のなんとなくの集まりである「46(シブプロク)会」で知り合った吉坂君らの即席バンド(実は、家庭をかえりみず、大晦日の深夜まで必死で練習したそうです。)による「フォークソングメドレー」があり、今日は何んかハイな杉田君そして自分まで飛び入り参加して、あの時代へ想いが翔びます。楽しい宴も終わり、少し離れた浜大津駅近くで2次会となりましたが、約40名の同窓生、そしていつまでも全然変わらない大野先生が参加され、久々の「平前様」となりました。幹事の三元君、水谷君、大変ご苦労様でした。今回は40周年を予定しているそうですが、またたくさんの同窓生、恩師の先生方が集まることを期待しています。(大橋秀彰)

40周年記念同窓会

(膳所高13回・昭和40年卒業)

06年9月24日、卒業40周年の同窓会を、来賓、参加者、併せて160名により、盛大に開催することが出来ました。

オープニングは、校歌斉唱で始まるはずが、久保君の「六甲おろし」の演奏で始まるというサプライズ。たちまち場の雰囲気はなごみ、冒頭から大いなる盛りりを見せました。

今回は、同期生の大崎君を母校の校長として迎えることができた、喜びもひとしほ。母校の現況報告を受けました。まもなく完成する新しい校舎への大いなる期待と共に、我々の学んだ校舎の無くなることへの一抹の寂しさも感じさせられました。

久々の再会に、会場は益々盛り上がる中、出席いただいた恩師との交流も活発になり、とりわけ、最長老の岡田先生のかくしゃくたる姿に、参加者一同、驚かされました。

我々同期生は、これから還暦を迎え「2007年問題」等々、とりまく環境は厳しいものがありますが、旧友、恩師との交流を通じ明日への新たな活力を授かったような、豊かな気持ちになりました。5年後の再会を約し、散会しましたが、「頑張らないけど、あきらめない」の精神で、全員が元気で再会できることを信じています。

最後になりましたが、今回の剰余金の一部を母校の教育施設充実にと、寄付させていただきました。母校の益々の発展を祈念してやみません。(永味幸雄)



45周年記念同窓会

(膳所高8回・昭和35年卒業)

桜の蕾もほころび、春の訪れを感じさせる平成十七年三月二十日(日)に琵琶湖ホテル瑠璃の間において、昭和三十五年第八回卒業生が集い「四十五周年記念同窓会」を開催いたしました。

松山義夫先生、岡田節夫先生、前川哲郎先生の三名

の恩師と現在の校長大崎悦男先生をお迎えし、同窓生180名の出席のもと、華やかに、そして盛大に行われたところであります。

しかし、この四十五年の間に、すでに三十八名の同級生が亡くなられており、出席者全員が黙祷をささげ、ご冥福をお祈りしたところであります。

四十周年に続いて五年ぶりに同窓生の全員に案内状を送るという大きな同窓会となりましたが、東は茨城県千葉県、西は大分県から、そしてさらに遠アメリカ・サンフランシスコ

からも参加していただき、久しぶりの再会に一同大感激し、瞬間に予定の三時間が過ぎてしまったところでありました。

それぞれ年齢も六十歳を越え、白髪が増えたり、また薄くなったたりする中で、当時の紅顔の美少年、美少女だった頃の懐かしい顔を思い出しながら、四十五年間の歩んできた人生を共に語り合い、楽しい同窓会となりました。

特にパワーポイントを使用しての「思い出を語る」は膳所高校100年の歴史も交えながら写し出される懐かしいシーンの連続で思わずタイムスリップしたかのような思いをいたしました。

引き続き宴会となり、あちらこちらのテーブルで笑顔の絶えない話の花が咲き乱れ、時の過ぎるのを忘れてしまったところでもあります。そして宴半ばでのビンゴゲームにも年を忘れて大ハシヤギし、また楽しいひとときとなりました。

最後に、「琵琶湖周航の歌」を大合唱し、本当に名残りのない中で、またの出会いを願いつつお開きとなったところであります。

その後、隣の部屋に移っての二次会は一〇〇名余の皆さんが参加し、カラオケ大会ではプロ歌手勝負の歌が次々に披露され、夜の更けるのも忘れず楽しい時間を過ごさうと、本当に皆さんありがとうございました。

「遵義の桜咲いて一〇〇年」の歴史と伝統ある膳所高校の今後ますますの発展と同窓生の一層のご健勝を祈念いたしますとともに、お世話になりました膳所高校同窓会事務局の方々や関係の皆様方に心から御礼を申し上げます(池口博信)

46周年記念同窓会

(膳所高7回・昭和34年卒業)

平成十七年九月十一日(日)、卒業四十六周年記念同窓会が大津プリンスホテルで開催された。

私たちが昭和三十四年卒、第七回卒業生は、三十周年記念同窓会以降、毎年九月第二週の日曜日に同窓会を開くことを決めており、今年も、当時の三学年六組(担任北条先生)が準備を行った。

恩師六名のご臨席のもと、五十八名の同級生が集まった。先生方も皆お若く、同級生と見まちがう友もおり、和やかな雰囲気のままに開会された。

型どりのセレモニーの後、「京都発見・茶の心」等の写真集を多数出版している、雄友のカメラマン、井上隆雄君に心で写す写真という題で講演をお願いした。「これからの我々に与えられた時間は、自在(自由よりも上?)の境地に浸ることが、生きるエネルギーにつながる」等、写真とは直接関係ない唆に富む話が聞け、暫し、今後の生き方に思いを馳せた。

あと、懇親会に入り、各テーブルで、恩師を囲み最近の出来事や、昔話を花が咲いた。思い出深い木造校舎や、間もなく取り壊される三階建て校舎で三学年から学んだ、やんちゃ揃いの(先生方いわく)私達も、若い時は進路も異なり出会いの場もなかったが、年を重ねるに従ってハイキング、登山、温泉旅行等と、趣味を共有する時間が増え、同級生であったことが本当に良かったと思える年頃になった。

懇親会にはあつという間に過ぎ、終了間際に七組(男子クラス)と、十組(女子クラス)が合同で来年の準備をする事が決まり、終わりに、琵琶湖就航の歌を全員で肩を組み、手を繋ぎ合唱して来年の元氣な再会を祈念して、お開きとなった。

その後、場所を琵琶湖一望のラウンジに替えいっそう親しく話弾んだ。毎回遠路はるばる参加してくる友達もおり、なほ別れ難く、夕方の街に再びくりだし青春時代復活の一日になった。(樋口寛)

50周年記念同窓会

(膳所高3回・昭和30年卒業)

天高く馬肥ゆるの秋真只中の昨年10月22日、昭和30年卒業(天津東高第三回卒)の私達は、大津プリンスホテルに於て卒業50周年記念同窓会を開催致しました。

卒業以来10年程開隔がありましたが、それ以来3年ごとに定期的に開催している同窓の集いです。前回、平成14年に別れたきりの400名余りの会員の皆様のご健勝を切に祈りながら、ご案内を差し上げました。ほとんどの元氣だとのご通知をいただきました。が、なかにはご家族の人からの本人死亡通知を受けました。結果、恩師の先生方を含め120名の出席のもと、文字通り時間のたつのを忘れて旧交を暖めました。ご出席下さった先生方のかくしゃくとしたお元氣さと生徒であった私達の年令の差も全く感じられず、胸につけていた赤いボールがなければ恩師だか仲間の子供なにかまざらわしいことでした。ほとんどの会員が現役第一線を退いておられるものの、勤勉、努力を何十年も積み上げて

ほぼ目標をやり遂げた充実感があふれ、若い頃は異なった大人の顔の落ちついた雰囲気も終始たまたよい、それでもほとんどの人々が退職後ならんかの型で社会とかかわってフルに能力を生かされていくうれしい現実も数多く見聞き致しました。卒業50周年という記念の同窓会でありましたので、同期の前京大総長 長尾真氏の「これからの情報化社会」というタイトルでご講演をいただき身近な例やわかり易い口調でお話しいただき友人でありながら、前京大総長のお話をしに聞けることに感激したことでした。

次の同窓会にはぜひともお互い元氣で又逢おうと約束し合っており、とっぴりと日がお沈んだ夕刻に名ごりがつきぬまま散会しました。(遠藤幸子)

恒例のクラス会を昨年10月22日(土)、瓦ヶ浜湖畔の「アル・マール」で開催し、「喜寿」の前年度と同じ57名の参加をえた。

60周年記念同窓会

(膳所中43回4年卒組・昭和20年卒業)

恒例のクラス会を昨年10月22日(土)、瓦ヶ浜湖畔の「アル・マール」で開催し、「喜寿」の前年度と同じ57名の参加をえた。

今回は、まずマイクロバスに分乗して母校に誘った。在校時の校舎はなく、其処には創立以来4回目の新校舎が建設中。周辺も様相一変して大多数が卒業・終戦以来の訪問とあれば戸惑いを拭えなかつたと思うが、現校舎の屋上から展望してしばし往時を偲び、正門から完成間近の壮大な教室棟を仰ぎ見たり、「遵義・力行」の校訓を掲げて伝統を継いでいる現役若人と同じ気を吸って、己がじし石鹿健児たるの矜持も新たに

背筋が伸びて見えた。

会場に戻れば眼下に湖水と本丸址。水泳訓練や唐橋までの遠泳に励んだ少年時代を彷彿とでも久し振りに札幌から馳せ参じてくれた初田毅也君は、入学後々から端艇部ゴックスで活躍していただけに感慨一入であったことと思う。

我々の膳中生活は戦争真只中で、最後は二年短縮して繰上げ卒業となった学年。満たされなかったことが、深層で、母校への思慕と級友仲間意識に作用して、日頃クラスの支えになっていたように覚えているところ。

今回は、大崎悦男校長（昭40卒）が休日も拘らず親しく現地案内・現況説明いただき、同窓会本部からは周年祝い金を頂くなど、学校サイドから記念祝賀のクラス会のために格別のご高配を賜ったことに一同深く感銘し、心の故郷「わが母校」の益々の隆昌を胸中密かに希ったことでした。ご厚情に対し紙上をお借りして御礼申し上げます。

60周年記念同窓会

（膳中43回5年卒組・昭和20年卒業）

戦時中の非常措置として、中等学校の修業年限が一年短縮されて、昭和20年3月28日には、五年生と四年生が同時に卒業した。前年からは勤労動員に従事していたので、それぞれの動員先から久しぶりに学校に帰った卒業式であった。

私も5年卒業組は、「膳中四三回」と名乗り、昭和29年から始ると毎年七月に同窓会を開き、30周年以来10年毎に記念事業を行ってきた。

60周年の今回も、計画をたて、事前に募金を行った。7月10日午後2時半から「唯泉寺」（大津市）で82名の物故者の慰霊祭を、午後4時から「琵琶湖ホテル」で受付や写真撮影を、午後5時から懇親会を行った。出席者は37名だった。



信楽の大西忠左氏に、記念品として祝盃を焼いてもらい、寄附をしてくれた人に贈った。「慰霊祭」と「懇親会」等の写真、及び名簿を冊子にし、「60周年記念写真集」として同窓生全員に贈った。

65周年記念同窓会

（膳中三八会・昭和15年卒業）

卒業65周年を記念した膳中三八会は今年も「あみ定」で6月16日に開催し、旧交を温めながら今までの記録をもとに思い出を話し合った。最初の話題は卒業した昭和15年3月8日の夜に三井寺下にあった旅館「紅梅」で開催した第1回の同窓会であった。それから3年間は年に2回ずつ開催したが、昭和18年になると太平洋戦争のため陸海軍軍人として戦地に赴かれる級友も多くなったので、「膳中三八会名簿」を作り憲兵隊に許可を貰いに行ったが、その年齢の動向が判らなくなった。昭和18年と19年には例会が持たなかったが終戦の昭和20年は開催できなかった。昭和21年から今年までの60年間、毎年1回の同窓会を続けているし、昭和54年の秋には恩師岡田啓二先生を囲む会を先生の郷里である土浦市で開催し喜んでいただいた。また膳所高80周年には膳中三八会から146万円を寄付した。



万歳!! 90歳の同窓会

（膳中31回・昭和8年卒業）

私達は正四年生まれ、当年九十歳膳所中学校を昭和八年、実に気が遠くなるような、七十二年前の卒業生です。卒業の頃には既に満州事変も始まり、愛国婦人会や国防婦人会の出征兵士を送る万歳の声が、石鹿

の間にひびき、やがて数年後には、今度はわれわれが戦場に送られ、沢山の犠牲者を出し、今思えば全くさまたしい悪夢のような青春時代を過ごしました。八年振りの同窓会を、去る平成十七年四月二十五日琵琶湖ホテルで開催しました。何分高齢で出席者の少ないことを予想していましたが、生き残り八名。遠くは、東京、神戸から足や腰の痛みをおし集まり思わず歓声があがりました。物故者への黙禱、校歌の合唱、和気あいあい、新聞社の取材も受け、まことに思い出に残る同窓会となりました。母校の新校舎も来年末完工のこと、これは誠に些少ですが私達の気持ちです、どうぞ何かの役におたて下さい。

膳中三七会

（膳中37回・昭和14年卒業）

我々の人生もそろそろ峠に差しかかっているだけに存命の級友も可成り脚のつれや、心臓負担に耐えかねている向きもあり、その級友達が一堂に会することは大変である。併し今年も十八名の級友相集い、再会出来たことは何にも増して喜ばしい事である。昨年は卒業六十五周年を一つの区切りとして守山西連寺に於いて追悼を行ったことが昨日の事のように想い出されるが、今年には再び「びわ湖ホテル、長等の間」に席を移し、湖上を渡る春風を受け和気藹々裏に歓談、何時の間にか時計は七十年前に捲き戻され往時を偲んだが、今席は我が級友が佛教美術の権威である宇野茂樹君の興味深いシルクロードの旅物語り（注「佛教東漸の旅」の著書あり）を聴きこの集いに花を添えてもらったのである。



我々がクラス会のメには必ず校歌を斉唱するが、校歌を唱うことにも増して既に変った旧き学び舎や運動場、それにも増して亡き恩師や級友の面影を蘇らせるモチベーションとするのである。その意味で最後には「春駒蕩の琵琶の湖」を声高らかに斉唱、又来る年の再会を約して解散したのである。石鹿の校歌を語り、琵琶の春の一句でこの稿を終りとする。

膳中三九会

（膳中39回・昭和16年卒業）

昨年十一月十六日、安土町ふな幸で、関東九州からも参加、十七名が集いました。天候に恵まれ、午前中四百年をさかのぼり、織田信長を偲び、信長の館、安土城跡を中心に散策見学しました。



信長ゆかりのセミナリヨでは、パイプオルガン伴奏により膳中校歌「草生す城は城がれど」と声高らかに斉唱し印象深いものがありました。午後には田舎料理に舌鼓を打ち、なごやかなひとときをすごし、夕刻になり再会を約してお開きとなりました。

霜月会

私達のクラス会は平成十七年十一月十二日に盛大に開催されました。原則として毎年十一月に集いますので「霜月会」と呼称しています。学校百周年の百三十頁にも記載されている歴史があり膳所高同窓会でも有数の名物クラス会だと自負しています。第一回は昭和二十六年で、途中、十八年間のプランクがありましたが、昭和四十八年に復活して以来今日迄毎年続き今年には三十六回を数えました。



三十三年振りという方も含め計二十四名が集いました。今回は新築中の校舎を屋上から見学し、学校を卒業してから五十五年振りの教室へ入り勉強机に座らせて戴いて、森地教頭先生からお話を伺い乍ら懐かしく半世紀を偲びました。後、瀬田川沿いの新近江別館で懇親の場を持ち、和やかに賑々しく、時間の経つのも忘れて友情を深めました。一旦、来年度の幹事を決めお開きを宣言したのですが、中々、名残りが惜しいのか、ロビーや控室に三々五々衆を成し駄目が続きました。会員の皆さん、来年もお元気を出席会にしましょうね。

周年記念同窓会 予告

25周年記念同窓会

(膳所高31回・昭和58年卒業)

日時 平成18年12月30日(土)
13時～15時(一次会)
15時30分～17時30分(二次会)
会場 ホテルグランピア京都
会費 10,000円(一次会)5,000円(二次会)
(全て予定、詳細は後日はがきにて案内)
発起人代表 原田道生
連絡先 ただ今、幹事・クラス幹事募集中!!
〒520-0242 大津市本堅田3-23-19
FAX 077573-7341
携帯 080-5302-9527
E-mail: nicholovenol@ezweb.ne.jp

訃報

元同窓会長 岩崎栄三氏のご逝去を悼んで

平成17年10月28日(逝去され、10月29日の通夜式に引続き30日(自宅)で葬儀が営まれ約2,000名の人々が別れを惜しまれ、同窓会関係者も多数参列いたしました。

岩崎栄三氏は昭和20年膳所中学校卒業後、昭和25年から昭和56年まで同窓会会計、昭和57年副会長さらに昭和58年から平成3年5月まで会長に就任、実に40年もの長きに亘り、同窓会の第一線で活躍いただいた。昭和63年には膳所高創立90周年記念式典実行委員長を兼務、記念講演会の開催や90年の歩みのスライド編集などに奔走された。

また、昭和47年には膳所高PTA副会長、昭和49年から昭和53年にはPTA会長に就任、同時に滋賀県高等学校PTA連合会会長ならびに全国高等学校PTA協議会理事として活躍され、他にも許すまじく膳所高OBであった。数年前から少々体調をくずされたとは伺っていたが、膳中野球部で培われた強靱な身体と旺盛な行動力で克服されるものと信じて疑わなかった。余りにも早い(逝去に、今はただご冥福をお祈りするばかりである。)苦勞様でした。そして、安らかに眠りください。

井戸庄三先生安らかに

昭和34年9月・昭和39年3月 人文地理担当教諭として、本校に奉職、授業の傍でト班を指導。昭和37年、徳島国体に顧問として出場。スナイプ級準優勝、ディンギ1級3位の成績をもたらされた。平成16年春病果が発見され、以来闘病生活をされましたが、平成17年6月27日、満71歳の誕生日を迎えられた直後、永眠されました。いつも笑顔を絶やさなかった先生の面影を偲びつつ、冥福をお祈りいたします。

30周年記念同窓会

(膳所高24回・昭和51年卒業)

日時 平成18年4月29日(土)17時～20時
会場 琵琶湖ホテル 瑠璃の間
会費 15,000円(一次会含む)
12,000円(二次会のみ)
(当日、希望者には母校新旧校友会見学会を行います。15時膳所高集合)
代表幹事 岡田隆彦・木津恵子
携帯 090-8932-2862
E-mail: takas3@kade@nmail.co.jp

45周年記念同窓会

(膳所高第9回・昭和36年卒業)

日時 平成18年9月23日(土)
会場 大津プリンスホテル
幹事代表 松村文夫 橋本昭夫
※詳細は、8月頃に案内します。

50周年記念同窓会

(大津東高4回・昭和31年卒業)

日時 平成18年9月23日(土、秋分の日)
午前10時30分受付
会場 琵琶湖ホテル 瑠璃の間
会費 11,000円
※詳細については7月下旬にご案内いたします。
連絡先 東四会会長 椿鐵夫
TEL 077-534-5512

喜寿記念同窓会

(膳中46回・昭和23年卒業
旧膳所高・昭和24年卒業)

日時 平成18年11月12日(日)11時
場所 琵琶湖ホテル
(詳細は10月上旬に案内します)
幹事 大津東部グループ

第2回バレーボール部OB・OG総会盛大に開催

2003年2月22日の第1回総会から3年目の今年の2月25日、琵琶湖ホテルにおいて開催。昭和22年から平成8年の卒業生1221人が、同いに会し、先輩・同輩・後輩の親交を深め、次の第3回総会を約束して、盛会のうちに2次会へ流れ散会した。



(村田 毅)

同窓生投稿欄

青春の帆 (若い日の湖上写真)

西村構造事務所 西村 武
(大高2回・昭和26年卒)

木造2階建本館の図書室で水上を走る帆船の写真を見て目の前に湖水があるのだから何と何としてヨットを何年かかっても造りたいと竹馬の友と意気投合して舟大工を始めたが材料足らず、進学準備でそれどころでなくなり、もう止したかと思われ手伝ってくれる人無く、膳所の町工場で切りもった鉄板や、祖母の小森うたさんから小包で送り頂いた帯芯布をミシン縫いし、北風をうけても東北へ西北へ走り得る帆造りに、竹藪の竹を選んでマスト作りをしました。

君はヨット造りをしているそうだが必ず事故に陥る。沖で転覆したらどうするか?と八幡の友から注意を促されました。膳中二年、戦争終わつての九月膳所公園浜からの、二〇〇メートルの遠泳には完泳出来たが、中主の浜で北風、波に弄ばれ再び改良をかさねセンターボード帆船、舵の操りの練習を積み、知人の納屋に預つてもらいました。

建築科を卒業し辛い就職。独身寮暮らしで夏が来て日曜に北へ7キロメートルの長命寺浜へ帆走し、近づいて来た舟から写して頂いた写真で、50年以上も昔のことです。



ゆりのことば書展

昭和45年卒、湖南市在住、市学校図書館指導員猪飼(旧姓叶)由利子さん(54)が、心に残った本の一節を「書」で表現した書展を、この冬(12/18～1/15)日野町松尾のわたむきホールで開催された。猪飼さんは元中・高校教諭で、若い頃から続けてきた趣味の書と国語教師として本を生徒に紹介する活動とが融合し、20年ほど前から自分の読んだ本の中から心に響いた言葉を書き出したためきた。会場には1992年からこれまで書いた中から17点が展示。作品と一緒に、本の題名等がそえられた。

作品紹介

飛ぶことのできるのは心の底から
そうしたいと願った者が
全力で挑戦したときだけだ
「カモメに飛ぶこと」を
教えた猫

ルイス・セプルベタ著

猪飼さんは「本を読まない子が多いと言われていたが、きっかけさえあれば、のめり込むように読む子を目的にしたりしてきた。2年前に退職してからは、生徒ばかりではなく、幼児から大人までを対象にして、本を読む素晴らしさを広げたい。今回の書展がそのきっかけになればうれしい。『湖国と文化』(滋賀県文化振興事業団)の春号から白洲正子著「かくれ里」を訪れる「滋賀のかくれ里」を連載予定。本を通じて滋賀の文化の素晴らしさも広めて行けたら」と目を輝かしている。(I・Y)



同窓会役員 (平成17年～18年度)

会長	浅田 幸作 (膳6)	副会長	上野 滋子 (東2)
同	上木 徹 (東3)	同	阪田 順 (膳8)
同	渡邊 敦子 (膳10)	同	東郷 利夫 (東2)
同	大西 元則 (中47)	同	西村 育子 (膳6)
同	今市 信夫 (東1)	同	大村 倭文子 (東1)
同	高城 宗求 (東4)	同	小西 英太郎 (膳5)
同	松村 文夫 (膳9)	同	山田 勲 (膳11)
同	佐田 薫子 (旧大)	同	横田 陽子 (膳7)
同	遠藤 仁兵衛 (膳7)	同	東郷 重明 (膳15)
同	井上 正雄 (膳16)	同	山下 仁嗣 (膳29)
同	宇野 隆 (膳35)	同	飯田 勝一 (中41)
同	岡角 憲次 (大1)	同	
顧問		総務部	組織部
		財務部	広報部
		総務部	広報部
		総務部	広報部

第54回卒業式

「遅しく羽ばたく436名」

平成18年3月1日、本校体育館に於て、第54回膳所高等学校卒業証書授与式が行われ普通科396名、理数科40名、計436名が自信と誇りを持って新たな旅立ちをした。

宇野同窓会名誉会長、浅田同会長、今市同常任理事長、小西同総務部会長、元校長松山・小笠原・武原・西岡各先生方、山下父母教師の会長、南部同副会長、旧職員橋谷先生を来賓に迎え、保護者、在校生（2年生全員、1年生各クラス代表2名）、教職員出席のもと盛大に開催された。

3年生は各クラス担任から呼名され、卒業証書が各クラス代表に授与された。大崎悦男校長は、式辞の中で、現在と盛大に開催された。

また、これに先立って、卒業記念品目録贈呈式が行われ、代表の西尾優佑君が「液晶プロジェクター一式」を贈呈した。

また、これに先立って、卒業記念品目録贈呈式が行われ、代表の西尾優佑君が「液晶プロジェクター一式」を贈呈した。

平成17年度の京都大学での特別授業の報告

前期 平成17年4月～6月の金曜日
のうち6回、参加人数46名

後期 平成17年10月～平成18年1月の金曜日のうち6回、参加人数68名

コース エネルギー科学と社会環境コースA・B、生命科学コースA・B・C
地球環境工学コース、人文・社会科学コースの7コース

この事業は同窓会から助成金をいただいて活動しております。平成17年度は、上記の通り、金曜の放課後に、前後期あわせて114名の生徒が京大キャンパスで学びました。

文科省より学力向上フロンティアハイスクールの指定を受けて実施しているこの事業は、高校教育の枠を越えた発展的な学習をすることにより、学究的な意



欲・関心を喚起し、あわせて大学の教育内容への理解を深め、主体的な進路選択への意識を高めていくことが目的です。平成17年度前期に講座を受けた生徒へのアンケートでは、95.5%が「受講してよかった」と回答しており、満足度は極めて高いものとなっています。膳所高校としてもこの事業を続けていこうと思っております。どうか今後ともご支援のほど、よろしくお願いたします。

班活動報告

全国大会の結果

体育部

- 空手道班 全国高校総体 女子個人 形 出場 河原重里紗
- 男子個人 形 出場 岡本宗論
- 体操班 全国高校総体 女子団体 出場
- 個人南谷朋佳・総合・種目別ロープ・リボン
- 卓球班 全国高校総体 男子団体 出場 山本修平 出場
- 男子シングルス
- ヨット班 全国高校総体 男子 3チーム 出場
- 国民体育大会 男子FJ級
- 女子FJ級
- 女子シーホッパー級SR
- ボート班 国民体育大会 女子舵手付きオドルブル 8位(滋賀選抜高山)

文化部

- 放送班 NHK杯全国高校放送コンテスト 朗読部門・創作ラジオドラマ部門 朗読部門 廣脇 恵 出場
- ビデオメッセージ部門
- 音楽班 合唱部 全国高校総合文化祭 出場
- 全国高校総合文化祭 出場の班
- 全国高校小倉百人一首かるた選手権大会 出場
- 全国高校総合文化祭 生物班 出場
- 日本学生科学賞 入選 2等
- 書道班 全国高校総合文化祭 白子裕理 出品
- 全国公開書展準大賞 浦川千尋
- 国際高校生選抜書展秀作 本田紗依子
- 近江神宮全国献書大会 特選白子・浦川・小谷
- 安芸全国書展高校生大会 書道美術館賞 富澤優衣

サクラサク! 大学合格者

(国立大学)	京都大 37名	横浜国立大・岐阜大・静岡大・名古屋工大・大阪教育大・奈良教大 27名	京都薬大 26名
	滋賀医大 15名	育大・岡山・徳島大・高知大・大分大 19名	上智大・成蹊大・京家政大・東京農大・日本女子大・法政大・武蔵大・明治大・明治学院大・静岡文化 17名
	京都工芸繊維大12名	各1名	青山学院大・杏林大・関西学院大 21名
	北海道大 11名	各1名	早稲田大 19名
	滋賀大 9名	(公立大学)	京都女子大 19名
	京都教育大 8名	大阪府立大 17名	大阪薬大 17名
	奈良女子大 8名	大阪府立大 9名	武庫川女子大 12名
	名古屋大 6名	京都府立大 6名	東京理大 11名
	大阪府立大 6名	滋賀県立大 4名	近畿大 11名
	大阪外大 6名	京都府立大 3名	京都産大 10名
	広島大 6名	京都市立大 3名	慶応大 9名
	九州大 5名	横濱市立大 2名	慶南大 9名
	金沢大 4名	首都大東京岐阜薬大 2名	神戸学院大 9名
	信州大 4名	三重県立看護大・九州歯大 各1名	神戸女学院大 9名
	三重大 4名	北里大・中央大・津田塾大・日本大・立教大・愛知淑徳大 (短期大学)	大阪大谷大・畿野大 6名
	千葉大 3名	長浜バイオ大 3名	大 各1名
	東京大 3名	防衛医科大学 2名	(その他)
	東北大・お茶の水女子大・二橋大・富山大・福井大 各2名	北里大・中央大・津田塾大・日本大・立教大・愛知淑徳大 (短期大学)	京都大 3名
	帯広畜産大・東京海洋大・東京工業大 各2名	京都橋大・大阪工大・関西学院大・関西外大・神戸女子大・岡山理学院短大・松蔭女学院大 各2名	京都府立看護短大・京都女子大短大・甲子園短大・松蔭女学院大 各1名
	同志社女子大 29名	酪農学園大・自治医大 各1名	大短 各1名

弁論班 全国中学・高校ディベート選手権 (ディベート甲子園) 優勝



写真左より 富江宏(顧問教諭)、栗納裕貴(2年)、木村俊大(3年)、松田信康(2年)、西田茉莉(1年)、葛口彩(3年・班長、ベストディベーター賞)、吉川俊樹('03年度班長)、徳本純子('02年度班長)

編集後記

桜の季節です。中・高大と続く京都私立の中学生だった私が、どうしても父の母校に行きたくて「膳所高校」に入学した春は、もう31年も前のことです。今回の会報に元同窓会長の訃報を載せていただきましたが、私の実父のことです。急逝して半年、今、私は膳所高校で出会ったかけがえのない友・先輩・後輩・先生方等との縁全てが、父が残してくれた財産のような気がしています。石鹿健児そのものであった父は、人生の大半を大好きな膳所高校と共生きてきたと思うられます。水きに亘りお付き合いいただいた皆様方に、紙面をお借りして心より御礼申し上げます。(岡澤則子)



●WBC日本優勝で、余り野球に関心のない私でさえ、やればできるという勇気をいただいた気がします。当同窓会もさらに魅力的な会にしたいと思います。総会の後は活発な情報交換を期待します。名刺のご準備もお忘れなく、何かアイデア等ありましたら事務局まで。(下)

- 上野滋子(東2)・佐田葉子(旧大)・山田 勲(膳11)
- 服部 章(膳12)・東郷重明(膳15)・藤原陽子(膳16)
- 岡澤則子(膳26)・島田光章(膳17)・金澤吉孝